

主任コラム9月号

主任 澤井良子

0・1歳児クラスの朝の身支度の時間のことです。保育士が「〇〇ちゃん、エプロンをかごに入れてね」「おしぼりは、このかごだよ」と声をかけながら、子どもたちと一緒に準備をしています。

そんな中、0歳児の子が自分の手拭きタオルを掛けようとしていると、そばで見ている1歳児の子が、その子の顔写真を指さしながら「ここだよ」と教えていました。0歳児の子が違う場所に掛けようとすると、「こっち」と指差して掛けなおすのを手伝い、最後にはパチパチと手を叩きながら「できたね」と一緒に喜んでいました。その姿をみていると、普段自分たちが保育士からしてもらっていることを、今度は自分より小さな友達に伝えているように感じました。0・1歳児クラスは、月齢によって発達の姿も大きく異なります。だからこそ、同じ空間で生活する中で、自分のできることを友達に伝えたり、少し大きな子の姿を見て真似たりしながら、子ども同士で育ち合っているのだと思いました。

また別の日には、登園時に泣いている子がいると、その子の好きな絵本やおもちゃをそっと差し出し、相手の表情を見ながら関わろうとしていました。4月の頃と比べると、言葉が増え、やりとりができるようになったり、自分の思いを伝えられるようになったりと、子ども同士の関わりもずいぶん増えてきましたが、0・1歳児の子ども達が、相手を理解するために使っているのは、言葉だけではありません。泣いている表情、嬉しそうな顔、困っている様子などをよく見ながら、「どうしたのかな」「これが好きかな」と相手の気持ちを感じ取り、自分なりの方法で関わろうとしています。まだ言葉で十分に伝え合えない時期だからこそ、表情やしぐさ、声など、さまざまなものから相手の思いを感じ取っているのかもしれない。大人が「優しくしてあげてね」と教えなくても、毎日の生活や友達との関わりの中で、教えること、助けること、一緒に喜ぶこと、相手の気持ちを知ることが、少しずつ育っている・・・そんな子どもたちの姿を嬉しく感じました。

2歳児では、ゾーンで丸テーブルに座り、子ども同士でお互いを見ながらおままごとをしたり、電車の線路をくっ付けて協力しながら完成させたりする姿が見られました。保育士が遊びの中に入り込まなくても、子ども同士で「一緒に遊ぶこと」を楽しむ姿が増えています。これまでの1対1の関わりから少しずつ友達との関係が広がったり、同じ遊びを楽しんだり、役割を持ったり、思いを合わせたりする体験を重ねる中で、協力する力や相手を意識する力も育っているのだと感じます。こうした2歳児での経験が3・4・5歳児になって仲間と一緒に考えたり、力を合わせたりする姿へと繋がっていくのだと思います。子ども達は、毎日の何気ない生活や遊びの中で、友達の姿を見たり、真似たり、思いを伝えたり、時には思いがぶつかったりしながら、人と関わる力を身に付けていきます。大人がすぐに答えを教えるのではなく、子ども同士で気づき、考え、関わろうとする姿を大切にしながら、一人ひとりの育ちを見守っていきたいと思います。

